

漢法苞徳塾資料	No. 175
区分	治療論・臨床
タイトル	喘息の治療をめぐって 東鍼校専修科：喘息治療
著者	八木素萌
作成日	1991.02.17

◎基本的な問題

- a) 柳谷素霊「臟腑虚実補瀉穴表」について。
- b) 虚実と補瀉の基本問題について。
- c) 48 難の記述から～病の虚実と脉の虚実と診の虚実、という三つの概念の問題について～。
- d) 病因の確認の問題をめぐって～49 難の記述の重要性との関連で。
 - 〈イ〉内因と外感と不内外因の診別問題。
 - 〈ロ〉外感の六因の五行分類とその診別問題。
 - 〈ハ〉痰と飲と瘀と労と燥と虚火などのような病理的産生物が発病の直接的契機として作用している場合の問題と、それらの診断の問題、病理的産生物の病因性の排除をめぐって。
 - 〈ニ〉病因確認の方法について（49 難の記述の重要性）。
 - 〈ホ〉元氣（生氣）の水準の観察の問題と方法をめぐって。
 - 〈ヘ〉穴や経に表現されている反応の意味の多層性と、その意味する所の考察の問題をめぐって。病臓の反応、病因の反応、変動経の反応、これらの相関性反応、体質傾向の反応、病因物質（病理的産生物）関連反応、季節性反応、子午の開闔の表現としての反応などの八階層。
- e) 脈状診について、浮沈、虚実、遅数、と滑濇。六経辨脉、五臓辨脉、奇経脈状、六部定位脉法の簡便法。
- f) 臍傍反応と臟腑経絡、『靈枢』邪客第 71 の八虚診と背候診と、切経診について。
- g) 五行穴・郄絡原穴と腧募穴と八会穴と四宗穴の運用原理をめぐって。

h) 特殊穴の運用問題について。

	胸中之熱	胃中之熱	四肢之熱
針灸甲乙經「卷七」 「六經受病發傷寒熱病第一」	大杼、膺俞、缺盆、背椎、 此八者	氣衝、三里、巨虛、上 下廉、此八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者
類經図翼	大杼、中府、風府、缺盆	氣衝、三里、巨虛上廉	雲門、肩髃、委中、 腰俞
『素問』水熱穴論第 61	大杼、膺俞、缺盆、背俞、 此八者	氣衝、三里、巨虛上下 廉、此八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者
針灸大成	大杼、膺俞、缺盆、背俞、 此八者	氣衝、三里、巨虛上下 廉、此八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者
類經	大杼、膺俞、缺盆、背俞、 此八者	氣衝、三里、巨虛上下 廉、此八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者
医学綱目	大杼、膺俞、缺盆、背俞、 此八者	氣衝、三里、巨虛上下 廉、此八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者
東洋古代國士大儒經	大杼、膺俞、缺盆、背俞、 此八者	氣衝、三里、巨虛上下 廉、此八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者
景岳全書	大杼、膺俞、缺盆、背俞、 此八者	氣衝、三里、巨虛上下 廉、此八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者
傷寒論類方	大杼、膺俞、缺盆、背俞、 此八者	氣衝、三里、巨虛上下 廉、此八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者
注解傷寒論	大杼、膺俞、缺盆、背俞、 此八者	氣衝、（熊校記：各本 同。按素問作氣衝）三 里、巨虛、上下廉、此 八者	雲門、髃骨、委中、 髓空、此八者

※竇桂芳の流注指要賦

（二）胸中結痞～過在足少陰腎・手厥陰包絡、刺兩經之井原以瀉胸中之氣。

（ホ）心中結痞～過在足太陰脾・手少陰心、刺兩經之井原以瀉心中之氣。

（ヘ）胃中結痞～過在足厥陰肝・手太陰肺、刺兩經之井原以瀉胃中之氣。

或上腕中腕下腕心痞結而瀉之。

◎秦伯未の分類から～

(い) 咳嗽の分類

- a：脾虚不能昇清益肺
- b：肝火上灼干肺
- c：肺腎機能不協調
- d：風寒咳嗽＝痰多く稀薄
- e：風熱咳嗽＝痰粘不爽、或は乾咳無痰。

別分類では

- a：湿痰咳嗽
- b：肝火咳嗽
- c：腎虚咳嗽
- d：痰飲咳嗽
- e：肺痿
- f：肺癰

(ろ) 喘嗽の分類

a：実喘以痰為主一

- イ) 風寒に因るものは咳嗽胸満して悪寒し或は発熱する。
- ロ) 燥熱に因るものは身熱し煩満し咽痛あり口渴する。

b：虚喘以氣為主一

- イ) 肺虚タイプの場合には咳嗽のみでは無く語に力無く津液乏しく口渴き微熱がある。
- ロ) 腎虚タイプの場合では浮腫と悪寒と四肢が冷たいなどの陽虚の現象が見られる。

◎最近の臨床例から

逆氣と熱嗽・寒嗽、飲と痰、胸脇苦満と腹皮拘急と少腹痞満（少腹痞結）燥喘の場合、呼気困難タイプと吸気困難タイプ、いわゆるアレルギーの漢法医学的理解の問題、伏暑の湿熱が契機となった発作の場合、胞中血瘀に冷氣の邪による逆氣と寒嗽から発作となった場合、燥喘傾向が続いたものが伏暑感冒になったのち熱嗽に転じて激しい発作を起こした例、など等。

◎柳谷素靈師の配穴例『鍼灸治療医典』より。(別刷り参照)

おわり